

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301
研究種目：基盤研究(B) (一般)
研究期間：2018～2022
課題番号：18H00643
研究課題名(和文)抄物の文献学的研究

研究課題名(英文)Philological Study on Syomono

研究代表者

大槻 信(OTSUKI, Makoto)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：60291994

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、抄物を総合的に理解・活用すること、抄物の利用を促進することを目的とする。そのために、抄物の調査、多領域の研究者による研究会を行い、詳細な注解の作成とその公刊準備を行った。は新型コロナの影響により制限を受けたが、可能な調査を行った。の研究会は期間中に通算100回を超え、他に講習会、講演会も開催した。については、科研費・研究成果公開促進費(図書)への申請を行い採択された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

抄物は中世の学問全体を反映した総合的な注釈である。重要で多方面に利用可能な資料でありながら、その難解さから活用が進んでいない。本研究では、多様な分野の研究者による共同研究を行うことで、従来の問題点を克服するようつとめた。加えて、抄物講習会、抄物講演会を開催したほか、抄物を読み解くためのガイドとなる『提要』を作成するなどして、抄物に近づきやすくしたことが学術的・社会的意義である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to understand and utilize "syomono" (抄物, annotated notes for classical texts) and to promote the use of them.

Therefore, we conducted as follows: the research of syomono (), the seminar by multidiscipline researchers (), and creating detailed explanatory notes for syomono texts to prepare for publishing it ().

: The research was restricted due to the influence of the new coronavirus infection, but we conducted research as possible. : The seminars exceeded 100 times in total during this period. In addition, we held workshops and lectures of shomono for several times. : We applied for Grant-in-Aid for Publication Scientific Research Results (book), and the application was adopted.

研究分野：日本語学

キーワード：抄物 中世後期

1. 研究開始当初の背景

「抄物」とは、室町時代に禅僧や学者等によって多数作られた、漢籍・仏典を主たる対象とする講義録である。禅僧に好まれた詩文は、内容が難しいものが多い。蘇東坡、黄山谷など、中国最高の知識人が、多くの典拠を踏まえ、表現の綾をつくしたものである。それらを理解するためには「注釈」が必要であった。講者は、中国の注を引き、先行する日本の諸注を考量する。解釈はしばしば、もとの詩文から離れ、様々な方向へ広がっていく。注釈は「注の注に対する注」といった深い階層にまで及ぶ。典拠となる言葉や事物に着目して議論が延々と続くこともけっして珍しくない。話題は、中国・日本、古代・当代、言葉、思想、歴史、博物とあらゆる方面に及ぶ。時空を超え、学問領域をまたいだ総合的な議論が繰り広げられた。注釈することは、彼らにとって知の総体そのものだったのである。講義は、中世日本を代表する知識人がその蘊蓄の全てを傾けた学問の最前線であった。その講義録である抄物は、学術的なノートであると同時に、それだけで楽しめる読みものであり、また様々な知識が詰め込まれた百科事典でもあった。

そのような抄物を理解するためには、漢籍、仏教、言語、思想、歴史など、詩文の作者とそれを解釈しようとした人々がふまえる多くの知識が必要になる。抄物は「広大な沃野」(柳田征司)であると同時に、道に迷いやすい資料群でもあった。そのため、抄物は、その重要性が認識されながらも、これまで十分に活用されてこなかった。「抄物は使いにくい、難しい」として遠ざけられてきたのである。それは、抄物が大量・大部であるなど資料として扱いにくい面があること、抄物を理解するためには原典である漢籍など幅広い知識が必要であることが主な理由であった。

抄物は多種多様なものが諸所に散在して残存している。重要な資料が寺院や文庫に秘蔵されていることも多い。一点が数十冊に達することもしばしばで、調査に時間を要する。原本は漢字片仮名交りで書かれた写本や版本が中心であるため、出版時にも影印のみが示され、翻字されないことが多い。たとえ翻刻されても、そこに注解がつくことは極めて少ない。しかし、実際には、国語学国文学の研究者であっても、そのままでは利用しにくい資料であり、中国文学研究者など平素日本の資料に触り慣れていない者にとっては読めない。

抄物は従来、その口語性の高さから、日本語史の研究資料とされることが多かった。しかし、上述の通り、抄物は中世の知全体に関わる資料である。国語学者だけ、国文学者だけで扱うことには無理がある。逆に言えば、それだけの広がりを持つ資料群であり、中国文学、思想史、仏教、歴史など、もっと広く活用されてよい資料なのである。本研究は、「抄物から何を読みとることができるか」「抄物を真に利用するためには何が必要か」という問いを立て、共同研究によってその解決を図るものである。

2. 研究の目的

本研究は、中世後期の文化・思想・学問を、抄物を資料として明らかにしようとするものである。抄物における注釈は微に入り細を穿ち、話題はあらゆる方面に及ぶ。抄物は中世の学問全体を反映した総合的な注釈であった。そのため、現代の研究者が抄物を利用するためには、膨大な知識が必要となる。研究資料として多方面に利用可能な抄物が大量に存在するにもかかわらず、その難しさから活用が進んでいない。本研究では、多様な分野の研究者による共同研究を行うことで、従来の問題点を克服し、抄物を注釈として総合的に理解・活用しようとする。それを通して、中世後期の知識・文化の全体像に迫ることを目指す。同時に、その研究成果を公刊することで、抄物の利用促進をはかる。

3. 研究の方法

本研究の目的は、抄物を注釈として総合的に理解・活用することと、抄物の利用を促進することである。その目的を達成するため、以下の三つの方法をとった。が本研究の中心をなし、その基礎となるのが、の成果がである。

抄物の調査・撮影、情報収集と整理
多領域にまたがる研究者による研究会
詳細な注解の作成とその公刊

多種多量の抄物文献について、情報を収集し整理を行う。それによって、抄物の全体像を把握し、抄物の扱いにくさを軽減する。同時に、図書館、文庫、寺院等の文献調査を行い、新たな資料の発掘に努めるとともに、可能な場合には撮影を行い、資料を収集する。

幅広い分野の研究者が集う研究会を継続的に開催する。それによって、難解な内容を読解す

る労力を分担しあうとともに、多様な意見を相互に交換し、注釈として抄物を読解する方法を体系的に確立することを目指す。

抄物の影印・翻刻・解題・注解を公刊することによって、抄物を多くの研究者に開かれたものとしたい。

4. 研究成果

年度ごとに研究成果の概要を記す。 の別は、先の「3. 研究の方法」にあげたものに対応している。

2018年度

本年度は、抄物を多く所蔵する京都大学附属図書館および同文学研究科図書館の貴重書を中心に調査・撮影を行った。加えて、訓点資料・法談聞書の類を多く蔵する高山寺における調査・撮影を実施したほか、蓬左文庫・岩瀬文庫などから抄物関係の写真資料を収集し、分担者間で共有した。(以上、)

黄山谷(黄庭堅)の詩集の抄物『黄氏口義』(建仁寺両足院蔵、二一巻・二二冊、林宗二筆、1560-1567年写)を主たる対象とする研究会を継続して開催した(年度内に12回開催、参加者20名程度)。(以上、)

『黄氏口義』の中でも規模の大きな一篇である「演雅」の翻刻と詳細な注解を作成、掲載した(『国語国文』2019年5月号)。あわせて、本研究会の入門となる「黄氏口義提要」の作成を開始した。(以上、)

加えて、学生・若手研究者を主たる対象とする抄物講習会を開催した(2019年3月17日、大阪大学中之島センター多目的室607、講師:木田章義・蔦清行・山中延之・山本佐和子、11名参加)

2019年度

本年度は、抄物を多く所蔵する京都大学附属図書館および同文学研究科図書館の貴重書を中心に調査・撮影を行った。加えて、訓点資料・法談聞書の類を多く蔵する高山寺ならびに高野山大学図書館における調査・撮影を実施した。(以上、)

『黄氏口義』を主たる対象とする研究会を継続して開催した(年度内に11回開催、参加者20名程度)。研究会の一環として、外部の研究者を招き(青木博史氏・九州大学)「抄物講演会」を開催し(2019年5月11日)、40名程度の参加者を集めた。(以上、)

研究会の成果として、本研究会の入門書としての機能を果たす「黄氏口義提要」の作成をすすめ、その整備・フィードバックの機会として、提要担当者が黄氏口義について概説する機会を設けた(2020年1月1日)。その後、完成した「黄氏口義提要」をクラウド上で研究会参加者に公開した。分担者による論考「抄物研究の視点」(木田章義、国語と国文学、2019年5月)も抄物研究を概説するものとなっている。(以上、)

2020年度

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、図書館・寺院等での調査が大幅に制限された。一部可能な調査を継続して行ったほか、抄物原本を購入し、その撮影と研究を行った。(以上、)

『黄氏口義』を主たる対象とする月一回の研究会を継続して開催した(年度内に11回開催、参加者20名程度)。新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年4月のみ開催できなかったが、5月以降、Zoomを用いたオンライン開催に切り替え、継続開催した。それにともない、北海道、東京、広島、三重など遠方の研究者にも参加を呼びかけ、複数の参加を得ている。(以上、)

研究会の成果として、雑誌『訓点語と訓点資料』第146輯の小特集「訓点資料研究に期待すること」に、研究分担者である蔦清行の「抄物研究から: 翻訳・注釈としての訓点資料と抄物」と山中延之の「抄物研究から」が掲載された。抄物は訓点資料と関わりが深く、また、両者には原本資料研究という共通点がある。また、分担者・山中延之は、本務校である京都女子大学にて2020年11月16日~12月4日に開催された「京女100年の至宝」展の図録解説において抄物に深く関わる『聚分韻略』『韻鏡』を担当した。いずれも京都女子大学吉澤文庫蔵で、清原家旧蔵。抄物著作・書写者として名高い清原宣賢の書写(聚分韻略)・刊行(韻鏡)にかかるものである。(以上、)

2021年度

本年度は前年度に続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により、図書館・寺院等での調査が大幅に制限された。一部可能な調査を継続して行ったほか、抄物原本を購入し、その研究を行った。(以上、)

『黄氏口義』を主たる対象とする月一回の研究会を継続して開催した(年度内に12回開催、参加者25名程度)。オンライン開催としたため、北海道、東京、広島、三重など遠方の研究者の参加も得た。また、2021年8月21日に堀川貴司氏(慶應義塾大学 斯道文庫 教授)による

「五山文学研究と抄物」と題した抄物講演会をオンラインで開催し、90名近い参加者を集めた。研究の成果として、抄物関係の論文を複数公刊したことに加え、緑川英樹「五山僧は山谷詩をいかに読んだか 万里集九『帳中香』について」(東方学会第65回国際東方学会議(ICES)関西部会)ならびに木田章義「国語史研究における抄物への道」(訓点語学会第124回春季研究発表会)という二種の講演があり、研究の総括がなされた。後者については、木田章義「国語史研究における抄物への道」(『訓点語と訓点資料』、147輯、2021年9月)として刊行されている。また、研究会の成果を公刊するため、次年度の研究成果公開促進費への申請も視野に入れて、出版社との協議をはじめとする出版準備を本格的に開始した。(以上、)

2022年度

本年度は前年度に続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により、図書館・寺院等での調査が大幅に制限された。一部可能な調査を継続して行った(京都大学の図書館、高山寺、仁和寺など)ほか、東福寺蔵『帳中香』の画像など各種の資料を入手し、研究に活用した。(以上、)

『黄氏口義』を主たる対象とする月一回の研究会を継続して開催した(年度内に12回開催、参加者25名程度。2023年2月は通算100回目の研究会となった)。オンライン開催としたため、北海道、東京、三重など遠方の研究者の参加があった。(以上、)

研究の成果として、抄物関係の論文を複数公刊した。また、研究会の成果を公刊するために、科研費・研究成果公開促進費(図書)への申請を行い、採択された。その間、公刊の準備として、原本所蔵者・出版社・写真を所蔵する禅文化研究所との協議を行ったほか、夏季と冬季に入稿に向けた原稿検討会を行った。(以上、)

最終年度に記したとおり、科研費・研究成果公開促進費(図書)の補助を得て、2023年度中に本研究課題ならびに研究会の成果を『抄物を読む 黄氏口義』提要と注釈』として公刊する予定である。その目次・構成を以下に示す。

【第一部】黄氏口義提要

- 1 抄物とは
 - 一、抄物とは
 - 二、抄物を用いた研究
 - 三、抄物を読む
 - 四、本「提要」の構成
- 2 『黄氏口義』の原典
 - 一、詩人の略歴
 - 二、山谷詩を読む際のポイント
 - 三、黄庭堅集のテキストと注釈
 - 四、五山僧が読んだ黄庭堅集
- 3 山谷抄の諸本
 - 一、「諸本」の考え方と系統
 - 二、山谷抄の諸本と系統
 - 三、主要三系統の特徴
 - 四、C-(3) 林宗二抄『黄氏口義』の特徴
 - 五、補足(書き入れ抄物など、その他の抄物)
- 4 『黄氏口義』に関わる人々
 - 一、抄者林宗二
 - 二、引用される五山禅僧
 - 三、その他の人名
- 5 漢籍解題
 - はじめに
 - 一、宋元史書
 - 二、唐宋別集
 - 三、韻書・類書
 - 四、詩話・筆記
- 6 抄物の言語
 - 一、言語資料としての抄物
 - 二、『黄氏口義』の言語の特徴、特にその年代
 - 三、『黄氏口義』の表記
 - 四、『黄氏口義』の文法
 - 五、『黄氏口義』の語彙
 - 六、まとめ
- 7 参考文献

- 【入門篇】「抄物って何？」という段階で見るべき本
- 【実践篇】『黄氏口義』を実際に読む段階で見るべき本
- 【発展篇】他の抄物を読んだり、抄物で研究するという段階で見るべき本

【第二部】翻刻注釈

凡例

影印

本文・翻刻・注釈

- 1 題
- 2 古詩二首（江梅）
- 3 又（青松）
- 4 次韻公擇舅
- 5 贛上食蓮有感
- 6 送王郎

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 大槻信・山中延之	4. 巻 1
2. 論文標題 小川義章師覚書類の翻刻（その4） 『高山寺記録 寺史作成の資料』（その1）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 令和三年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 29-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木田章義	4. 巻 147
2. 論文標題 国語史研究における抄物への道	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 59-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蔦清行	4. 巻 31
2. 論文標題 寛永19年版『古文真宝前集抄』の黄山谷詩の注について：万里集九『帳中香』とのかかわりから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語・日本文化研究	6. 最初と最後の頁 6-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 蔦清行	4. 巻 49
2. 論文標題 「筆端鼓舞」という評価：抄物を通して見た文藝批評序説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語・日本文化	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 緑川英樹	4. 巻 51-2
2. 論文標題 萬里集九《帳中香》的詩學文獻價值	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 清華学報	6. 最初と最後の頁 271-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6503/THJCS.202106_51(2).0002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大槻信	4. 巻 8-2
2. 論文標題 『新撰字鏡』の序文を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 信州大学人文科学論集	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大槻信・山中延之	4. 巻 令和二年度
2. 論文標題 小川義章師覚書類の翻刻(その3) 『高山寺史料覚え書』後半	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 26-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷雅夫	4. 巻 89-10
2. 論文標題 蕪村発句解十二章	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 21-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木田章義	4. 巻 1
2. 論文標題 日本語の起源（と古代日本語）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較文化	6. 最初と最後の頁 75-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鳶清行	4. 巻 146
2. 論文標題 抄物研究から：翻訳・注釈としての訓点資料と抄物	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 110-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中延之	4. 巻 168
2. 論文標題 抄物に見られる打消接続助詞「いで」 柏舟宗趙講『周易抄』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 女子大國文	6. 最初と最後の頁 58-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山中延之	4. 巻 146
2. 論文標題 抄物研究から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 118-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇都宮 啓吾、大槻 信、岡村 弘樹	4. 巻 143
2. 論文標題 大坪併治先生略歴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大槻 信、岡村 弘樹	4. 巻 143
2. 論文標題 大坪併治博士著作略目録	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 6-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大槻 信	4. 巻 89-3
2. 論文標題 『新撰字鏡』の編纂過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 45-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大槻 信、山中 延之	4. 巻 令和元年度
2. 論文標題 小川義章師覚書類の翻刻(その2) 『高山寺史料覚え書』前半	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 42-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木田 章義	4. 巻 96-5
2. 論文標題 抄物研究の視点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木田 章義	4. 巻 1-2
2. 論文標題 河野六郎著『文字論』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 漢字之窓	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蔦 清行	4. 巻 29
2. 論文標題 五山禅僧と医界：黄山谷の詩の抄物から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語・日本文化研究	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 蔦 清行	4. 巻 14
2. 論文標題 ゾンゾ致：文献学的抄物読解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 間谷論集	6. 最初と最後の頁 172-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石丸 羽菜、松本 朋子、黄氏口義研究会	4. 巻 88-5
2. 論文標題 建仁寺両足院所蔵『黄氏口義』「演雅」翻刻と注釈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大槻信	4. 巻 41
2. 論文標題 日本古辞書雑考 古辞書と日本語	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 口訣研究	6. 最初と最後の頁 47-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木田章義	4. 巻 149
2. 論文標題 饅頭屋と博士家 文化を守るもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ビブリア	6. 最初と最後の頁 26-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷雅夫	4. 巻 87-8
2. 論文標題 和漢聯句の楽しみ(一)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 34-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷雅夫	4. 巻 87-9
2. 論文標題 和漢聯句の楽しみ(二)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 1-61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷雅夫	4. 巻 87-10
2. 論文標題 和漢聯句の楽しみ(三)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 37-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美文理	4. 巻 -
2. 論文標題 内藤湖南の絵画論と阿部コレクション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30年度特集展示「生誕150周年記念 阿部房次郎と中国書画」開催記念国際シンポジウム報告書 阿部コレクションの諸相 文化的意義とその未来	6. 最初と最後の頁 151-161
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美文理	4. 巻 92
2. 論文標題 文藝学会公開講演会筆録 見えないものを表現すること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文藝論叢	6. 最初と最後の頁 78-89
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 緑川英樹	4. 巻 7
2. 論文標題 歐陽修的美醜意識及其表現 圍繞對韓愈詩“醜惡之美”的接受	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新宋学	6. 最初と最後の頁 186-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 13件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 明恵上人と高山寺の文化財
3. 学会等名 令和3年度東京国立博物館 連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」第1講「鳥獣戯画の伝わった寺 高山寺と明恵上人をめぐる美術」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 平安時代古辞書概説
3. 学会等名 訓点語学会2021年度古辞書講習会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木田章義
2. 発表標題 国語史研究における抄物への道
3. 学会等名 訓点語学会第124回春季研究発表会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 緑川英樹
2. 発表標題 五山僧は山谷詩をいかに読んだか 万里集九『帳中香』について
3. 学会等名 東方学会第65回国際東方学会議 (ICES) 関西部会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 禁断の中古辞書文献 『新撰字鏡』の序文を読む
3. 学会等名 信州大学日本語学夏季セミナー (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 平安時代古辞書概説
3. 学会等名 訓点語学会古辞書講習会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大槻 信
2. 発表標題 中国辞書と日本辞書 『新撰字鏡』の編纂過程
3. 学会等名 東方学会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 緑川 英樹
2. 発表標題 万里集九《帳中香》の詩学文献価値 論日本室町時代の山谷詩闡釈
3. 学会等名 「宋代文献新視野：研究課題及方法的反省与前瞻」国際研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 緑川 英樹
2. 発表標題 山谷詩概説 『黄氏口義』の原典について
3. 学会等名 黄氏口義研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山中 延之
2. 発表標題 抄物概説 『黄氏口義』提要のために
3. 学会等名 黄氏口義研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 平安時代の辞書 古辞書と日本語
3. 学会等名 漢検漢字文化研究所 連続講座「中国と日本の字書と辞書」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 観智院本類聚名義抄小考 凡例・修理・九行本
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美文理
2. 発表標題 見えないものを表現すること
3. 学会等名 2018年度大谷大学文藝学会公開講演会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美文理
2. 発表標題 内藤湖南の書画論と阿部コレクション
3. 学会等名 生誕150周年「阿部房次郎と中国書画」開催記念国際シンポジウム「阿部コレクションの諸相 文化的意義とその未来」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 USAMI Bunri
2. 発表標題 An Explanation of the Relationship Between Maps and Shan Shui Paintings
3. 学会等名 The 7'th international Symposium Old Maps in Asia(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鳥清行
2. 発表標題 ゾンゾ致 文献学的抄物読解
3. 学会等名 日本語日本文化教育研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計24件

1. 著者名 大槻信ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京国立博物館	5. 総ページ数 472
3. 書名 特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」図録	

1. 著者名 京都大学和漢聯句研究会（大谷雅夫・金光桂子ほか）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 322
3. 書名 曼殊院蔵 和漢聯句作品集	

1. 著者名 大谷雅夫（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 452
3. 書名 漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏	

1. 著者名 宇佐美文理（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 768
3. 書名 美学の事典	

1. 著者名 金光桂子（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 358
3. 書名 国風文化 貴族社会のなかの「唐」と「和」	

1. 著者名 大槻 信・山中 延之（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 527
3. 書名 高山寺経蔵の形成と伝承	

1. 著者名 大谷 雅夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 335
3. 書名 和漢聯句の楽しみ 芭蕉・素堂両吟歌仙まで	

1. 著者名 金光 桂子 (解題執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 奈良絵本集 三 (新天理図書館善本叢書25)	

1. 著者名 金光 桂子 (解題執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 248
3. 書名 奈良絵本集 四 (新天理図書館善本叢書26)	

1. 著者名 金光 桂子 (解題執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 266
3. 書名 奈良絵本集 五 (新天理図書館善本叢書27)	

1. 著者名 天理大学附属天理図書館編、大槻信監修	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 472
3. 書名 類聚名義抄 観智院本 一 仏	

1. 著者名 天理大学附属天理図書館編、大槻信監修	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 448
3. 書名 類聚名義抄 観智院本 二 法	

1. 著者名 天理大学附属天理図書館編、大槻信監修・解題執筆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 462
3. 書名 類聚名義抄 観智院本 三 僧	

1. 著者名 日本語学会編（大槻信・項目執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 1328
3. 書名 日本語学大辞典	

1. 著者名 大槻 信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 272
3. 書名 平安時代辞書論考	

1. 著者名 森田貴之、小山順子、蔦清行編（木田章義・分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 日本人と中国故事（担当「日本人と中国故事」）	

1. 著者名 森田貴之、小山順子、蔦清行（大谷雅夫・分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 日本人と中国故事（担当「春宵一刻直千金」の受容と変容）	

1. 著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 419
3. 書名 文選 詩篇（二）	

1. 著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 408
3. 書名 文選 詩篇（三）	

1. 著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 436
3. 書名 文選 詩篇 (四)	

1. 著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 416
3. 書名 文選 詩篇 (五)	

1. 著者名 天理大学附属天理図書館、石川 透、恋田 知子、金光 桂子(解題執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 202
3. 書名 奈良絵本集 二	

1. 著者名 森田貴之、小山順子、蔦清行(蔦清行・分担執筆)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 日本人と中国故事(担当「中世後期の漢故事と抄物」)	

1. 著者名 森田貴之、小山順子、蔦清行（山中延之・分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 日本人と中国故事（担当「桃源瑞仙『史記抄』のことわざ「袴下辱」について」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木田 章義 (KIDA Akiyoshi) (30131486)	京都大学・文学研究科・名誉教授 (14301)	
研究分担者	大谷 雅夫 (OTANI Masao) (80152172)	京都大学・文学研究科・名誉教授 (14301)	
研究分担者	宇佐美 文理 (USAMI Bunri) (70232808)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	緑川 英樹 (MIDORIKAWA Hideki) (30382245)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	金光 桂子 (KANAMITSU Keiko) (30326243)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	薦 清行 (TSUTA Kiyoyuki) (20452477)	北海道大学・文学研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	山中 延之 (YAMANAKA Nobuyuki) (00782591)	京都女子大学・文学部・准教授 (34305)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関